

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

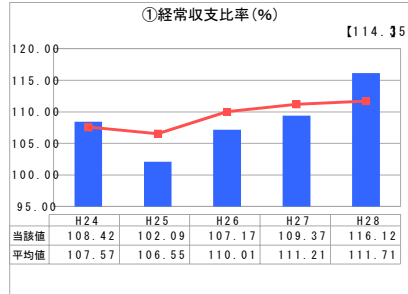
京都府 綾部市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)	
-	63.76	82.95	4,104	

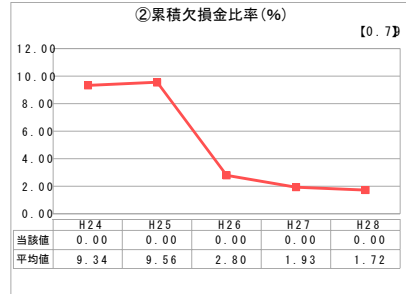
人口(人)	面積(k㎡)	人口密度(人/k㎡)
34,500	347.10	99.39
現在給水人口(人)	給水区域面積(k㎡)	給水人口密度(人/k㎡)
27,444	54.45	504.02

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
[ ]	平成28年度全国平均

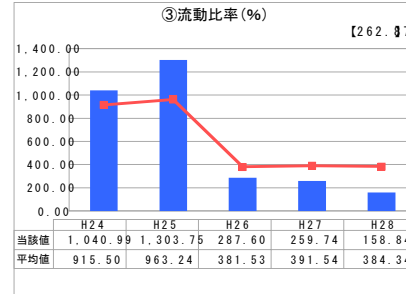
## 1. 経営の健全性・効率性



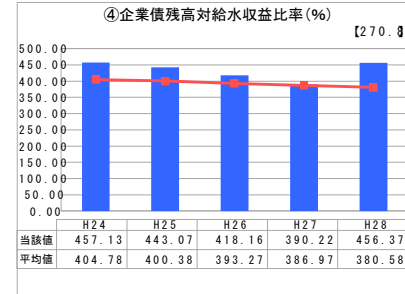
「経常損益」



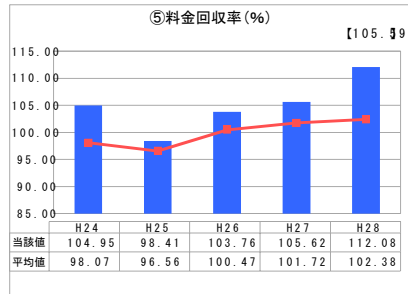
「累積欠損」



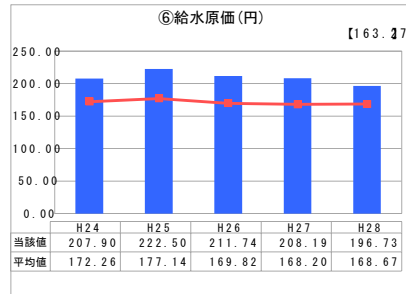
「支払能力」



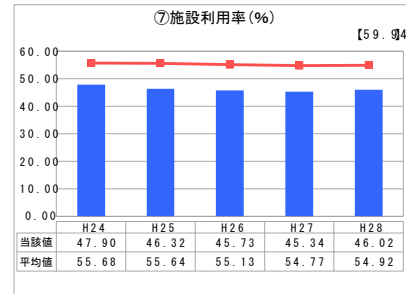
「債務残高」



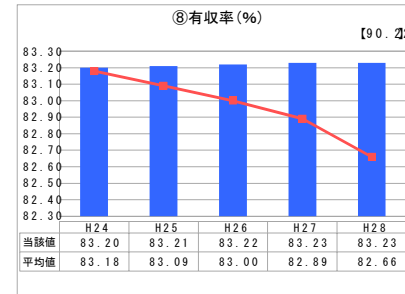
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

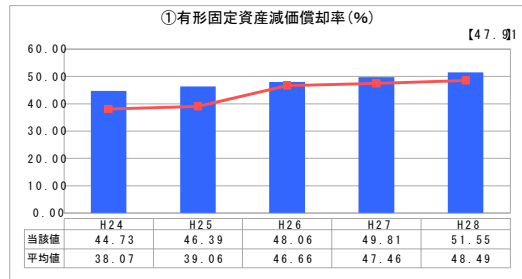


「施設の効率性」

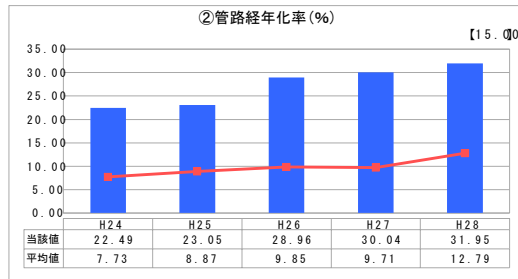


「供給した配水量の効率性」

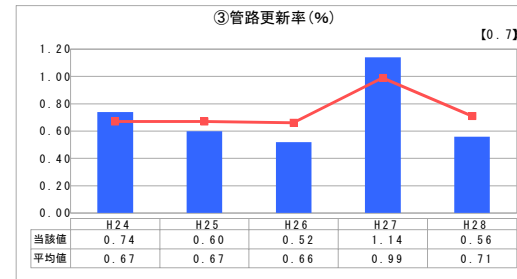
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は116.12%と100%を上回っており、単年度収支は黒字です。しかし、給水収益が減少傾向にあるため、引き続き、事業の効率化、経費の削減に努めます。  
 ②近年、累積欠損金は発生しておらず、健全経営ができています。  
 ③流動比率は158.84%と100%を上回っており、短期的な債務に対して支払うことができる現金等がある状況を示しています。  
 ④企業債残高対給水収益比率は、平成28年度に浄水場整備の財源として7億円の企業債を発行したため上昇しましたが、今後は企業債の発行を抑制し、安定経営に努めます。  
 ⑤料金回収率は、100%を上回っており、給水に係る費用は給水収益のみで賄えています。  
 ⑥給水原価は類似団体平均値を上回っています。これは、給水面積が広く給水集落も点在しているため、設備投資、施設の維持管理費等に多額の経費が必要であり、事業効率の悪いことが影響しています。  
 ⑦施設の利用率は46.02%と類似団体平均値を下回っていますが、地域の特性上、お盆または年末年始など一時的に使用量が増加する時期があること、災害に対応できるように一定の余裕は必要と考えています。  
 ⑧有収率は83.23%と類似団体平均値を上回っています。引き続き漏水調査を継続して行い、計画的に老朽管の更新を行います。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は51.55%と類似団体平均値に近く、適切な数値であると考えられます。水道事業ビジョンにおける投資計画に基づいて、施設更新を実施していきます。  
 ②管路経年化率は31.95%と類似団体平均値を大きく上回っています。法定耐用年数を経過した管路を多く保有していることを示していますが、水道事業ビジョンにおける投資計画に基づいて、管路更新を実施していきます。  
 ③管路更新率は0.56%と類似団体平均値を下回っていますが、安定経営のために計画的な管路更新を実施しています。

### 全体総括

経常収支比率は100%以上で累積欠損もなく、流動比率についても100%以上となっているため、概ね健全経営ができています。しかし、今後は、給水収益の減少や老朽施設の更新経費の増加などが見込まれ、また、簡易水道事業の上水道事業への経営統合を予定していることから、経営状況が悪化することが予想されます。今後とも、安全・安心な水を安定して供給し続けるために、水道事業ビジョンに基づき、水道施設の適切な管理運営や更新事業などを計画的に推進し、更なる経営の健全化に努めます。

※ 平成24年度から平成27年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。